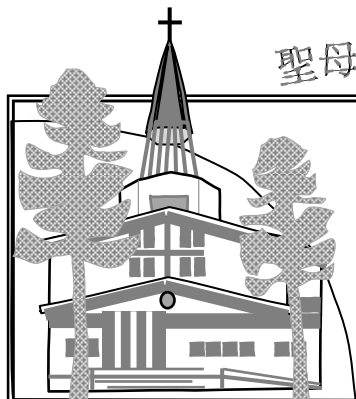


聖母の被昇天 おめでとうございます



週報

カトリック 園田教会

A年

2014年

8月15日(金)

No. 号外



8月15日(金)

聖母の被昇天(祭日)

ミサ 9:00

ジョヴァンニ神父

今日の聖歌と祈り

- 入祭の歌 : 典礼聖歌 371 しあわせなかたマリア
答唱詩編 : 「聖書と典礼」をご覧ください
アレルヤ唱 : 「聖書と典礼」をご覧ください
奉納の歌 : 典礼聖歌 322 愛と いくしみの あるところ
拝領の歌 : プリント いくしみ ふかき(カトリック聖歌657番)
閉祭の歌 : プリント あめの きさき(カトリック聖歌322番)

今日の典礼奉仕者

- 先唱 田口
第1朗読者 岡田(壮)
第2朗読者 上島(青)
共同祈願・意向担当者 ① 丸尾(壮) ② 田中 ③ 谷井 ④ 谷井
奉納と献金 総務委員会
典礼当番 細木
答唱詩編 全員
オルガン奉仕者 山田

聖母の被昇天

マリアが靈魂も肉体もともに天に上げられたという教義で、1950年11月1日に、教皇ピオ十二世(在位 1939~1958)が全世界に向かって、処女聖マリアの被昇天の教義を莊嚴に公布しました。

聖書の中で、聖母の被昇天については直接記されていませんが、カトリック教会は何世紀にもわたって伝達されてきた伝承(聖伝)を聖書とともに大切にしてきました。この聖母の被昇天の教義も神から啓示された伝承の一部であることをかつての司教たちが一致して認め、ピオ十二世が公に教会の教義であることを公布することによって、マリアが神の母であることを特に強調したことが考えられます。……………

この8月15日が聖母マリアの祝日であることについて、歴史的に次のように言われています。5世紀のエルサレムでこの日に祝われていた神の母マリアの記念は、6世紀には、マリアの死去の日として東方教会で祝われるようになりました。この死去は、マリアが天に召された(帰天)ことと永遠のいのちのうちに誕生したこととして記念されていたようです。やがて7世紀半ばに西方教会にも受け継がれ、教皇セルジオ一世(在位 687~701)は、徹夜祭やハドリアヌス教会からサンタ・マリア・マジョーレ教会までの行列などで盛大に祝っています。マリアの被昇天の名で知られるようになったのは、8世紀末になってからです。こうして1950年のピオ十二世の教義宣言に至るまでマリア信心の深まりと同時に、次第にこの日を特別な日として祝うようになりました。

聖母の被昇天への信仰は、マリアだけが特別な存在だと言い表すものではありません。キリストによる救いにあずかる人たちの象徴として、信じるすべての人たちの救いへの希望を表現するものです。ミサの集会祈願はこのことを教えます、「全能永遠の神よ、あなたは、御ひとり子の母、汚れのないおとめマリアを、からだも魂も、ともに天の栄光に上げられました。信じる民がいつも天の国を求め、聖母とともに永遠の喜びに入ることができますように」。

(カトリック中央協議会 HP ひとくちメモから)